

植物プランクトン種の短期

交替と環境変動（抄録）

大塚 弘之・萩平 将・吉田 正雄

本研究は、「有害赤潮の生態学的制御による被害防除技術の開発に関する研究」の中の一項目で、南西海区水産研究所から委託を受け、4年間実施するもので、本年が2年目にあたる。

調査地点並びに調査方法については前年と同様である。以下に結果の概要について報告する。詳細については、「有害赤潮の生態学的制御による被害防除技術の開発に関する研究、平成2年度研究報告書」を参照されたい。

平成2年度の研究成果の概要

- 1) 本年は、Chattonella 赤潮の発生がなく、珪藻の出現数は、前年を上回ることが多かった。
- 2) 調査期間中、海況が比較的安定した状態が継続し、Chattonella の出現時期に大きな鉛直混合がなかったものの、表底層の水温差が減少した7月上旬に栄養塩類の湧昇が確認された。
- 3) Chattonella の出現は、前年と較べ時期的には全く差がなかったものの、その後の増殖に大きな差がみられた。この原因として、出現時期の栄養塩濃度および競合プランクトン（珪藻類）の出現数の違い、あるいは出現初期の Chattonella の増殖能力に差があるものと考えられた。

今後の課題

- 1) 出現初期の Chattonella の増殖能力の差について検討を行う必要がある。
- 2) 珪藻類の種の短期交替について、より詳しく観察する必要がある。
- 3) 鉛直混合前後の物理・化学的環境とプランクトンの出現との関連について更に詳細に検討する必要がある。